



も

く

じ



2～3歳	春のめざめ・・・・・・・・・・	2
	カタツムリのさんぽ・・・・・・・・	3
	星のおくりもの・・・・・・・・	4
	夏の陽射しをあびて・・・・・・・・	5
	もうすぐ運動会・・・・・・・・	6
	夕焼け空の赤とんぼ・・・・・・・・	7
	サンタが街にやってくる・・・・・・・・	8
	ゆきうさぎ・・・・・・・・	9
	春の風・・・・・・・・	10
食事のチェックポイント	・・・・・・・・	11
	メモ・・・・・・・・	12

3～4歳	春の芽ぶきの中で・・・・・・・・	14
	つゆの空を見あげて・・・・・・・・	15
	おりひめとひこぼし・・・・・・・・	16
	楽しい夏休み・・・・・・・・	17
	お月見とハレーすい星・・・・・・・・	18
	秋の夜長・・・・・・・・	19
	こたつの準備・・・・・・・・	20
	北風と凧揚げ・・・・・・・・	21
	小鳥のさえずり・・・・・・・・	22

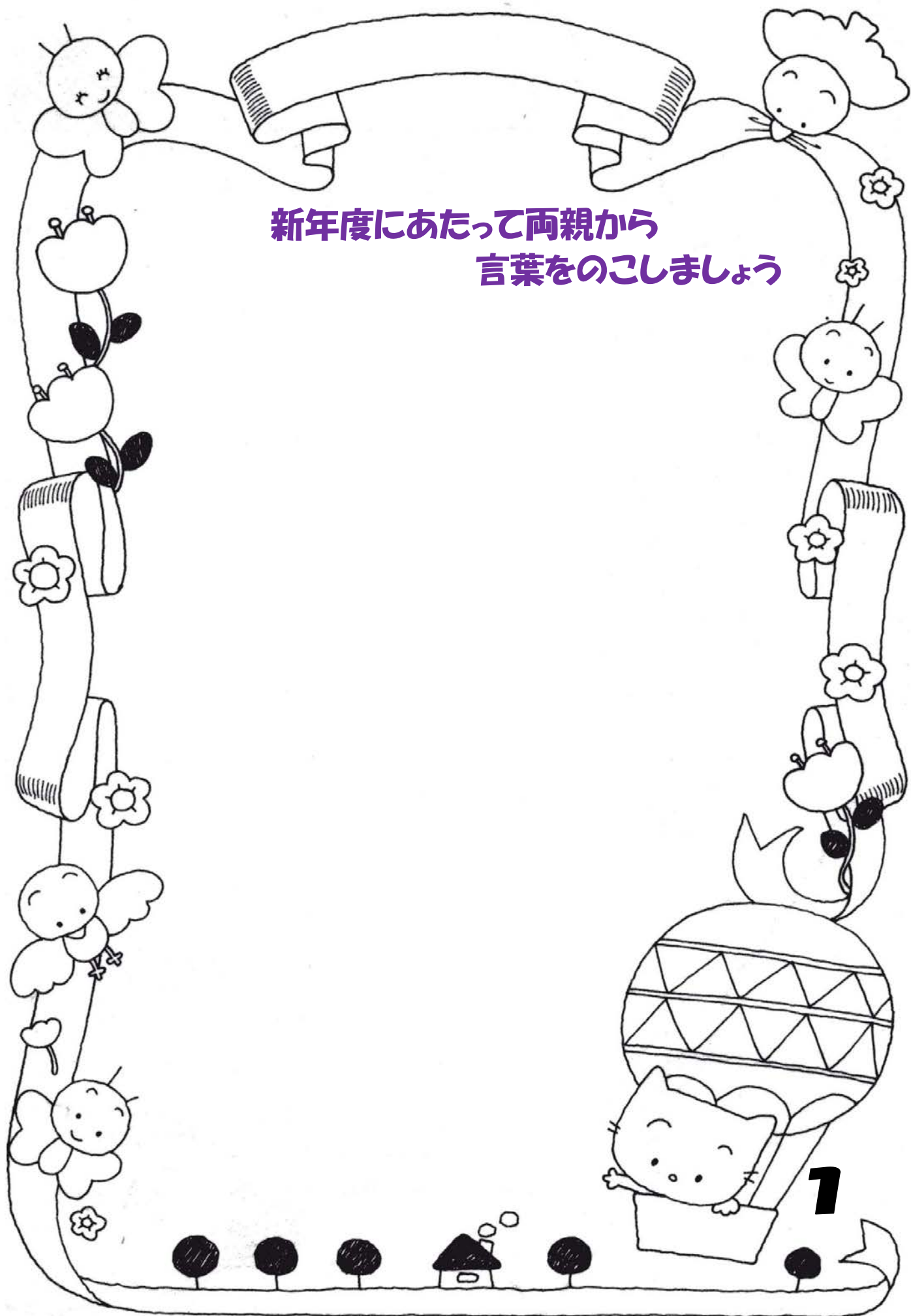
言葉を育てるつきあいかた		
チェックポイント	6	23

4～5歳	おおきくなったね！年長組	26
	雨の日のお話	27
	音楽発表会の音色を聞きながら	28
	海の探検	29
	運動会への意気込み	30
	虫のコーラス	31
	大晦日とお正月	32
	ふきのとうと春の風	33
	大きなジャンプ	34

上手な叱りかた		
チェックポイント	8	35

別表	『就学前に身につけておきたい事』	36
----	------------------	----

新年度にあたって両親から  
言葉をのこしましょう



## 春のめざめ

### \*自立\*

親子共に自立の始まりです。子どもが親離れしやすくするために親が子どものたくましさをまず信じましょう。親のたくましさを子どもに見せましょう。朝、子どもとお別れする時が最大のチャンスです。

### \*愛の充電\*

不安な一日が終わり、お母さんと出会うお迎えの一瞬が子どもの心の安定をつくります。子どもの手をにぎり、ぎゅっと抱きしめ、愛の充電をしてあげましょう。たった2、3秒の事でよいのです。

### \*あいさつ\*

ご家庭であいさつされていますか。ご夫婦ではいかがでしょう。今日からお父さんとあいさつをしましょう。雰囲気は活気づきます。今さらなんておっしゃらずに、親がすべて手本です。

### \*春の体験\*

春には春のふさわしい体験を子どもに与えましょう。遠くに行かなくても、近くの公園などでれんげをつんでみるのもいいですね。季節が過ぎていくのをぼんやりすごしているのは、四季のある日本に住んでいるのにもったいないことです。そしてそれを感じとらせるのはお母さんの働きかけ一つです。

### \*おもちゃ\*

入園を機会におもちゃの整理をされてはいかがでしょう。おもちゃ箱の中で眠っているものも案外多いではありませんか。

もう一度引っぱり出して、新鮮に見える物、またいつかのためになおしておくもの、いろいろあります。

### \*心\*

幼児期は心情の発達が最もめざましい時期です。この時期は家族に十分愛されているという充実感を持たせ、知的発達よりも、心情の発達を大切にしましょう。

美しいものに感動する心などはこの時期に育てておかないと、後では身につきません。

### \*はさみとおはし\*

指先の訓練は脳の発達を促します。新聞紙を用意して、好きなだけ切らせてみましょう。部屋中ちらかしてもけっしてしからないように。はさみの練習になると同時に発散にもなります。

おはしも同様、こぼれてもよいので使わせましょう。おはしの指導は、お母さんの大切な役目の一つです。

### \*お片付け\*

片付けるということに目的をおかないで、同じ色を集めるとか、同じ形の物からなおしていくなどして、楽しみながら習慣づけてみましょう。遊んだ後のいやな片付けも楽しいものとなります。



## カタツムリのさんぽ

### \*ゴールデンウィーク\*

お休みと集団生活が交互にやってくる連休はかえって疲れるものです。ゆっくり入浴し睡眠をじゅうぶんとらせ翌日に疲れが残らないような休日のプラン作りを心掛けたいものです。

### \*けんか\*

自分の意見を相手にうまく伝える事ができないため言葉より先に手が出てしまってけんかが始まります。このけんかは危険が伴わなければ口出しはしないほうがよいのです。このけんかを通して子どもはお互いを認めあっていくのですから。

### \*しかる\*

抽象的なしかりかたをしても子どもは理解できないことがあります。その時その場を捕えてなんでしかられているのか子どもに分かるようにしてあげましょう。昔の事を持ち出してものれんに腕押しです。

### \*雨の日のお話\*

誰でも一つや二つ民話や昔話をご存知でしょう。たった一つしか知らないそのお話でもよいのです。お子様のために聞かせてあげましょう。お母さんのお話は子どもの心にいつまでも残り、それは生きる支えにすらなるのです。

### \*けじめ\*

食事の態度やはしの使い方に気を配ってあげたいものです。楽しく食事をするということと遊びながら食事をするこのけじめはきちんとつけておきましょう。



### \*反抗期\*

何にでも誰にでも、さからってしまう嵐のようなこの時期、でも反抗期だからしかたないと諦めてはいませんか。子どもが聞いていようがいまいが、事の善悪は、しっかり、いいきかせましょう。いつかきっと、その事が、波が大岩を崩すようにじわっと現れてくるのです。

### \*雨降り\*

子どもにとって雨降りは退屈です。雨の日は、憂うつなんていう概念は、大人のもので、長靴で水たまりをはねたら、どんなに楽しいでしょう。たまには傘をさして散歩もいいものです。固定観念の枠をはずしてみる事から何かが変わります。

### \*しつけ\*

家庭でのしつけについて大人どうして話し合われた事がありますか。両親、祖父母等で、しつけの一貫性について話し合いの場を一度設けてはいかがでしょう。大人同士のコミュニケーションにもなり、案外、大人同士がまちまちの考えで子どもに接していたことに気付き、はっとさせられます。

### \*実行\*

顔を洗う、衣服の着脱、用便等、時間がかかっても自分がやるということを実行させたいものです。自分がやろうとしないで周りからさせられるという事は、結局、身につきません。

## 星のおくいの

### \*ファミリー発表会\*

ファミリー発表会を通して、子ども達は歌って発表したり、初めての体験に一生懸命取り組みます。このような時に、けなしたり、無視する事は、表情意欲をなくすことになります。行事を通して、ほめ上手なお母さんになりましょう。

### \*抵抗力\*

子どもは、季節の変わり目には抵抗力が弱まります。この時期、身のまわりを清潔にする習慣をつけましょう。爪、耳、目、鼻、喉の病気を見つけるのもお母さんの大事な仕事です。

### \*体力\*

今の子どもは、体格は良くなりましたが、体力が伴わないと言われます。いろいろな原因が考えられますが、歩く事が少なくなった事もその一つです。たまには、一つ前のバス停で降りて歩いてみましょう。体力向上と共に、街の意外な発見があるかもしれません。機会をつくってどんどん歩き足を鍛えましょう。

### \*水遊び\*

子どもは水遊びが大好きです。でも手洗いは、水遊びであってはいけないのです。けじめをつける事や水の大切さも、経験を通して教えてあげたいものです。

### \*姿勢\*

背筋をシャンとして立つ。簡単なようでいて難しい事です。正しい姿勢でテレビを見、食事をさせましょう。正しい姿勢の保持は、背筋力を鍛え、集中力を高めます。

### \*入浴\*

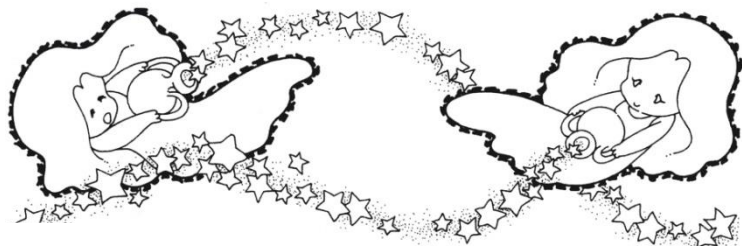
親子一緒の入浴をしたいものです。ふれあいとなると同時に子どもの身体の観察ができます。家庭管理上の資料の一つとして役立てましょう。

### \*爪きり\*

入浴後、今日一日の出来事を話しながら、聞きながら爪を切ってあげましょう。ゆったりした気分の時には、案外、意外な言葉がポンポン出てくるものです。爪きりの時間をその子のためだけのお話タイムにしましょう。

### \*テレビアニメ\*

アニメも、子どもの仲間作りのパスポートです。良い番組を選んで見せましょう。こんなものを見て、という前に、何故、こんなにおもしろがるのか、子どもと一緒に見てみようという気持ちを持つことが大切です。



## 夏の陽射しをあびて

### \*海辺\*

水遊びの季節です。海水浴、笹舟遊び、色水遊び等体験を広げましょう。海辺では、貝殻拾いをしながら、その貝のことを教えてあげられたら楽しいことでしょう。出かける前に少しだけでも図鑑を開いてみてはいかがでしょう。また水に浮く物、沈む物、水に差し込む光の屈折や、きりふきでつくった虹など話題にはいかがでしょう。

### \*夜空\*

夜空を見あげてお話をしましょう。今日一日のことを星を見ながら家族で話し合ってみるのも楽しいものです。このころまでは、まだお母さんやお父さんのお話の方が子どもにとって好ましいのです。とにかく、テレビを消してみることです。

### \*ふれる\*

海では、小石、貝殻、砂、山では、虫、草、花に触れてみましょう。皮膚で触れるという事が大切なのです。きたない、汚れる、という感覚を捨て、無理なく、自然にとけこむよう力添えする態度を持ちましょう。

### \*くりかえし\*

子どもは、繰り返し繰り返し、教えていく中で、学び、成長していくのです。子どもにとって、わかっている、くりかえしは大切なことです。しかる時には、人に迷惑な事、危険な事、不衛生な事は、絶対にいけないという、確固たる態度と根気で指導にあたりましょう。

### \*カレンダーごっこ\*

カレンダーで、今日は何月何日であるか言わせたり、テレビの司会ごっこを利用して家族の名前や住所を言わせたりして遊ぶのもおもしろいものです。楽しみながら、身に付ける事ができます。

### \*どうして?\*

忙しい時に限って質問してくる子ども達。つい面倒がってしまいますね。でも、『うるさいね。あっちへいきなさい。』『また後でね。』その一言が、子どもの興味や関心をどれだけむしり取っているのか考えてみましょう。答えられなければ、『あなたはと思う?一緒に考えてみましょう。』と問いかけてみればよいのです。

### \*正しい言葉\*

子どもの前では、はっきりした口調の、正しい言葉でお話しましょう。お母さんの言葉使いが子どもにうつるからです。お母さんが日頃、正しい良い話し方をしていれば子どもも自ずときれいな言葉を使うものです。

### \*フィンガーペインティング\*

夏の日、庭先でフィンガーペインティングもよいでしょう。糊に絵具を混ぜて、手足を使って紙いっぱいに描くのです。精神衛生上にも大変効果があります。



## もうすぐスポーツフェスタ

### \*緊張と休息\*

久しぶりに園生活で緊張したり疲れやすくなっています。また、暑さや運動会への興奮などにより、嘔吐、発熱、自家中毒などが起こりがちです。十分な睡眠やゆったりとした入浴を心がけてあげたいものです。

### \*順番\*

かけっこや競争、遊戯などを通して『勝敗』『順番』などの概念をわからせます。自分の順番を待つことや守る事についても、理解できるように指導しますので自分の意志をコントロールすることを覚えてくるでしょう。うれしさやくやしさを次回の励みとするような子どもになってもらいたいものです。

### \*告げ口\*

言葉が豊富になってきます。教師や母親の関心をひこうと告げ口や目立った行動が増えてきます。これは言葉の効果を楽しんでいる面もあり、その辺は大人がきちっと見極めたいものです。度が過ぎる時にはきちんと注意しましょう。また相手の気持ちも考えさせてみましょう。

### \*時間の観念\*

まだ過去、現在、未来の時間の観念がはっきりしません。近い、遠いの距離も、昨日と今日の違いもまだまだ混乱する頃です。どのくらいわかってきたか、子どもとの会話の中で確かめてみましょう。大人が考えていたよりよく理解していることに驚く事もあります。

### \*夏休みあけ\*

暫く登園を嫌がる子どもがみうけられます。でも2・3日頑張るとすぐ調子を取り戻します。わずかの辛抱です。

### \*円満な発達\*

言葉にしろ体格にしろ、発達に個人差がみられます。でこぼこ時代です。親があせっても仕方ありません。落ち着いて観察し、我が子の成長に気付くことが親の役割です。

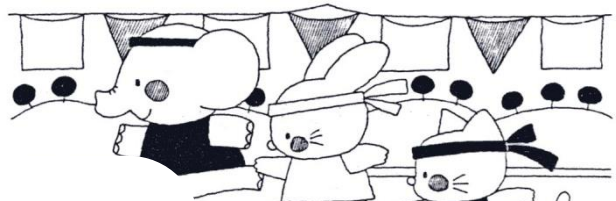
### \*たくましさ\*

3歳までは優しさでしっかり包み、これからは優しさと同時にたくましさも育てましょう。自分の才能を見つけるための積極性も必要です。親が面倒を見すぎて、子どもを引っ込み思案や親に頼りすぎる子にしていますか。過保護にならないように気をつけたいものです。

### \*秋の七草\*

秋の野に咲きたる花を指折りかき数ふれば七草の花 山上憶良  
思い切って外へ出かけてみましょう。思い立ったが吉日です。ちょっとした散歩でいいのです。すすきの一本でも食卓に飾ると夕食がおいしくなります。

秋の七草…ハギ、ススキ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウ





## 夕焼け空の赤とんぼ

### \* 模倣 \*

描写力が身についてくると同時に大人の絵や字の真似が始まります。「まねばかりして」「ちがうでしょ」と言わずに、やる気を大切に、興味を満たしてあげましょう。興味が湧いてきた時に教えて、自分の名前ぐらいすぐに覚えます。

### \* 冷たさの感触 \*

寒くなると顔を洗ったり歯を磨いたりするのがおっくうになりがちです。朝の生活習慣は暖かいうちにきちんとできるようにしっかり身につけさせましょう。水で顔を洗う冷たさが皮膚と脳の感覚を鍛えます。

1. 水で顔を洗う。子どもは湯を使わないようにしつける。
2. 着替えは自分でする。

### \* 偏食 \*

食べ物がおいしい季節です。料理にもひと工夫して何でも食べる子どもにしましょう。

- しつけ…… 1. わがままを言わせない。  
 率先垂範… 2. 母親が偏食しない。  
 3. 間食のし過ぎをしない。  
 工夫…… 4. 料理法を工夫し、無理に食べさせようとしない。  
 雰囲気…… 5. 家族皆で楽しく食べる。

### \* 湯冷め \*

気候の変化に体の調子を合わせましょう。夏の余韻を楽しみすぎると、湯冷めをするかもしれません。季節の移る良い時期です。健康に気を配って心地良い秋を味わいましょう。

### \* 目の愛護デー \*

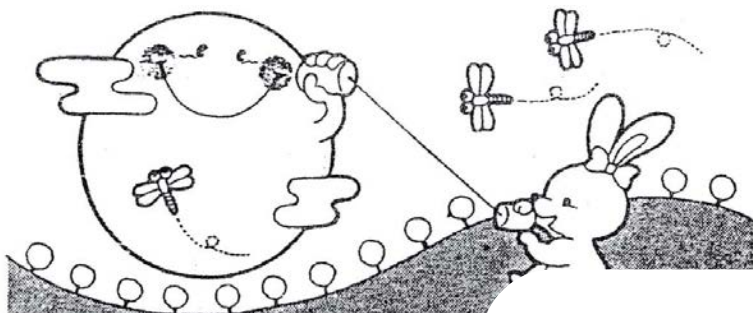
目に悪い姿勢を知っているか子どもに聞いてみましょう。照明やテレビの位置もチェックされてはいかがですか。目の愛護デーにちなんで夜空の星を仰げば心の目まですっきりするでしょう。

### \* 自由と放任 \*

子どもをのびのびさせる事と放任は違います。バスなどの乗り物の中で、他人に迷惑を考えずに、勝手放題にさせているのは放任で、公共の乗り物の中でのしつけができていない事になります。良いことと悪いことのけじめはきちんとつく子どもに育てましょう。

### \* 自然の移り変わり \*

どんぐり拾いや落ち葉集めは、大人でもいいものです。思いっきり楽しみたいですね。そうする事でいつの間にか子どもの心に微妙な自然の移り変わりも自然の造形の美しさも蓄積されていくのです。どんぐりや落ち葉の大きさ比べ、種類分け、形、色等を比較して遊ぶのも楽しみです。



## サンタが街にやってくる

### \*サンタクロース\*

赤い服に白いひげのサンタクロースは子ども達に夢を運んでくれる人気者です。3歳くらいまでは素直に信じる子どもが多く、4・5歳になると半信半疑ですがそれでもいてほしいという願いを持っているようです。

### \*口の運動\*

大きな声で歌う、反対に小さな声で歌うことは言葉の意味はわからなくても口を滑らかに動かす良い練習になります。調子はずれでも気にすることはありません。歌うことの楽しさを大いに味あわせてあげることの方が大切です。知らず知らずの内に語が増すという利点もあります。鏡を傍らにおいてその時の口の動かし方を自分で確認させるのも面白いかもしれません。

### \*表現発表会\*

表現発表会は、ファミリー発表会やスポーツフェスタと違った新しい経験です。素敵な衣装を着て少人数で舞台へ立つ、うれしさと共に心身も緊張しています。リラックスするように配慮しましょう。

### \*洗顔\*

水が冷たくなり手洗いや洗顔、うがいなどが面倒になりがちです。「洗ったよ」といってほっぺただけ、あるいは目だけちょっと洗って終わりという光景はありませんか。「洗ってきなさい」と言った後、たまにどんな洗い方をしているか見てみましょう。

### \*言葉は知能の源\*

言葉は人間らしい人間への出発点です。幼児期の言語環境は特に大切です。自分で納得し理解し創造の時期に入るからです。絵本やテレビを頼りすぎては望ましい発達は望めません。言語教育の一番の先生はお母さんです。子どもの良き遊び相手となり子どもと一緒に考え、子どもと心を通わせてこそ言葉は育ち、お母さんは最良の先生となるのです。

### \*子どもと同じ高さ\*

“子どもと同じ目の高さになってお話ししよう”という言葉は定着してきたようです。目の高さだけではなく、絵本やテレビを見たり、人の話を聞いたりする時も、子どもと同年齢になった気持ちで喜んだり悲しんだり、時には子どもと一緒に騒いだりしてみましょう。大人が忘れていた子どもの感受性を思い出します。



## ゆきうさぎ

### \*お母さんの姿\*

絵や字への興味がでてきます。この頃、直接文字指導というのではなく、興味が深まるような文字環境を与えるようにしましょう。お母さんが一行読んだら子どもが一行読んでみるというような読み合いっこも喜びます。お母さんが本を読んでいる姿を見せる事も子どもを読書好きにするコツです。新しい物を買った時、必ず名前を書く、その姿をお母さんが率先して示す事も大切です。

### \*いたづらがき\*

いたづらがきにしろ、丸、三角のデタラメ書きにしろ、書く生活に慣れ親しんでいる子どもは文字に興味を持ったとき、スムーズに心が満たされます。紙と筆記用具をいつも子どもの目に付くところに置いて、何時でも好きな時に書けるように早目にしつけましょう。

### \*遊び方の工夫\*

物の与えすぎについて考えてみましょう。一つのおもちゃで、遊び方を変えてじっくり遊ぶ経験をしていない子どもは、遊びを楽しむより新しいおもちゃを欲しがる事に興味を覚えてしまいます。

### \*我慢\*

欲しい物でも我慢しなければならない事もあるという事を体験させましょう。そして、おやつ代わりにお金を渡す事にも慎重さが必要です。お金よりも心を込めたおやつや、愛情のこもった言葉をあげましょう。

### \*節分\*

豆まきはされましたか。お父さんに張りきってもらいましょう。子ども達も季節の移り変わりに気付いているかもしれません。

### \*言葉の意味\*

言葉の仕組にも目をむけさせましょう。さかさ言葉や反対言葉遊びなど喜びます。意味をしっかりと考えるようになってきます。

### \*子どもは風の子\*

昔から子どもは風の子といわれますが最近では寒さに対する抵抗力が弱ってきているように感じます。少しの気温の変化ではへこたれない強い子どもにしましょう。

### \*わらべうた\*

わらべうたなど、知っている歌があれば教えてみましょう。誰にも小さい頃に聞いたなつかしい歌が一つ二つあるものです。大きな声よりきれいな声で歌うようにしましょう。核家族化されてきて、すてきな歌や遊びが伝承されなくなっていくのは寂しいことです。

### \*番組選び\*

視聴した内容がいい意味にも悪い意味にもどんどん吸収される時期です。番組をもういちど慎重に選び直してみる必要があるようです。

### \*年末年始\*

年末年始は大人の生活の乱れがち、それにつられて子どもが犠牲になることは慎みたいものです。



## 春の風

### \*おしゃべり相手\*

お母さんは子どもの絶好のおしゃべり相手です。お母さんが子どものおしゃべり相手をしてやることは、子どもにとっては現実を知り、現実を確かめる絶好のチャンスという訳ですから、工夫してあげたいものです。不安があるときは取り除いてあげましょう。

### \*成長と共に\*

子どもの成長と共に靴が足に合っていない子どもがめだちます。きつすぎるとかかとをふんで歩いたり、ゆるすぎるとすぐ脱げてしまったりで転びやすく危険が伴います。子どもにあったものを見つけてあげましょう。

### \*感謝\*

一年間自分が使ったおもちゃ道具等感謝の気持ちを込めて綺麗にしましょう。と同時に一年間の節目をお正月とはまた違った意味で感じさせましょう。4月からは自分より小さい人がいて、今までしてもらった優しさを分ける番です。自分の事は自分で行き、なお余裕があるように励ましてあげましょう。

### \*熱中\*

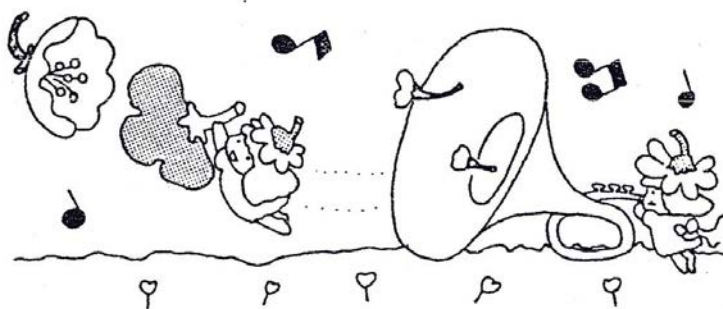
遊びに熱中するあまりきまりを忘れがちです。用便などもぎりぎりまでがまんして後にまわしがち、時々声をかけましょう。

### \*自覚\*

精神的にも肉体的にも一年間の成長は大きいですね。4月になって同じ年の新入園児に対してリーダーシップをとっていきます。その世話ぶりは年長児に負けないほどです。この自身は心身両面のより大きい成長につながります。

### \*幼稚園と保育園の違い\*

保育園は親が病気であったり忙しかったりして、家庭で子どもを保育できないのでやむなく保育園で家庭の代わりにしてもらおうのですが、幼稚園は家庭での教育は充分できているのだがもっと幼児期に必要な教育を受けさせたいという親の願いをうけて教育を行う所です。従って保育園では子どもの気持ちや願いよりも、まず親が子どもを引きとれる時間まで預かる事が優先されますし、カリキュラムも子どもの疲労の事を考えて幼稚園のように短時間に密度の濃いものを組むわけにはいかないのです。幼稚園でも長時間保育の事が問題になっていますが、子どもの心の事とカリキュラムの問題を考えると保育園ほどには延長できないものがあります。大人の都合によるのではなく子どもサイドにたって「これで良いのか」と考えてやれるのは親と幼稚園しかありません。子育て、それも小さいうちはそう長い年月ではありません。子どもの側に立って物ごとを考えたいものです。



大人にとっては単なる日常茶飯事であっても、それを糧に育っていく子ども達にとって食事は人間形成に及ぼす見すごされない大切な問題です。毎日の食事を簡単にチェックしてみましょう。

## 食事のチェックポイント

### 【料理の組み合わせ方】

- 1、魚、肉、卵、大豆等を主材料にした主菜があるか
- 2、野菜や芋を使った副菜があるか
- 3、3品以上の料理があるか(ごはん、汁、果物、飲物はのぞく)
- 4、煮た野菜料理はあるか
- 5、主食、主菜、副菜がそろっているか
- 6、日本料理はあるか
- 7、食塩、砂糖等の調味料を使いすぎていないか

### 【つくりかた】

- 1、即成の惣菜、調理済み食品、即席調味料にたよらぬ手作り料理か
- 2、季節の食品を生かしているか
- 3、身近にとれる材料をいかしているか
- 4、食品添加物や農薬等に注意しているか

### 【食べかた】

- 1、家族や友人等と一緒に会話のある楽しい食事か
- 2、時間を十分とった食事か(朝15分以上昼、夜20分以上)
- 3、朝食が軽すぎたり、夕食がおもすぎたり、間食にかたよったりしていないか
- 4、食卓についている家族と同じ物を食べているか
- 5、ながら食、だらだら食はないか

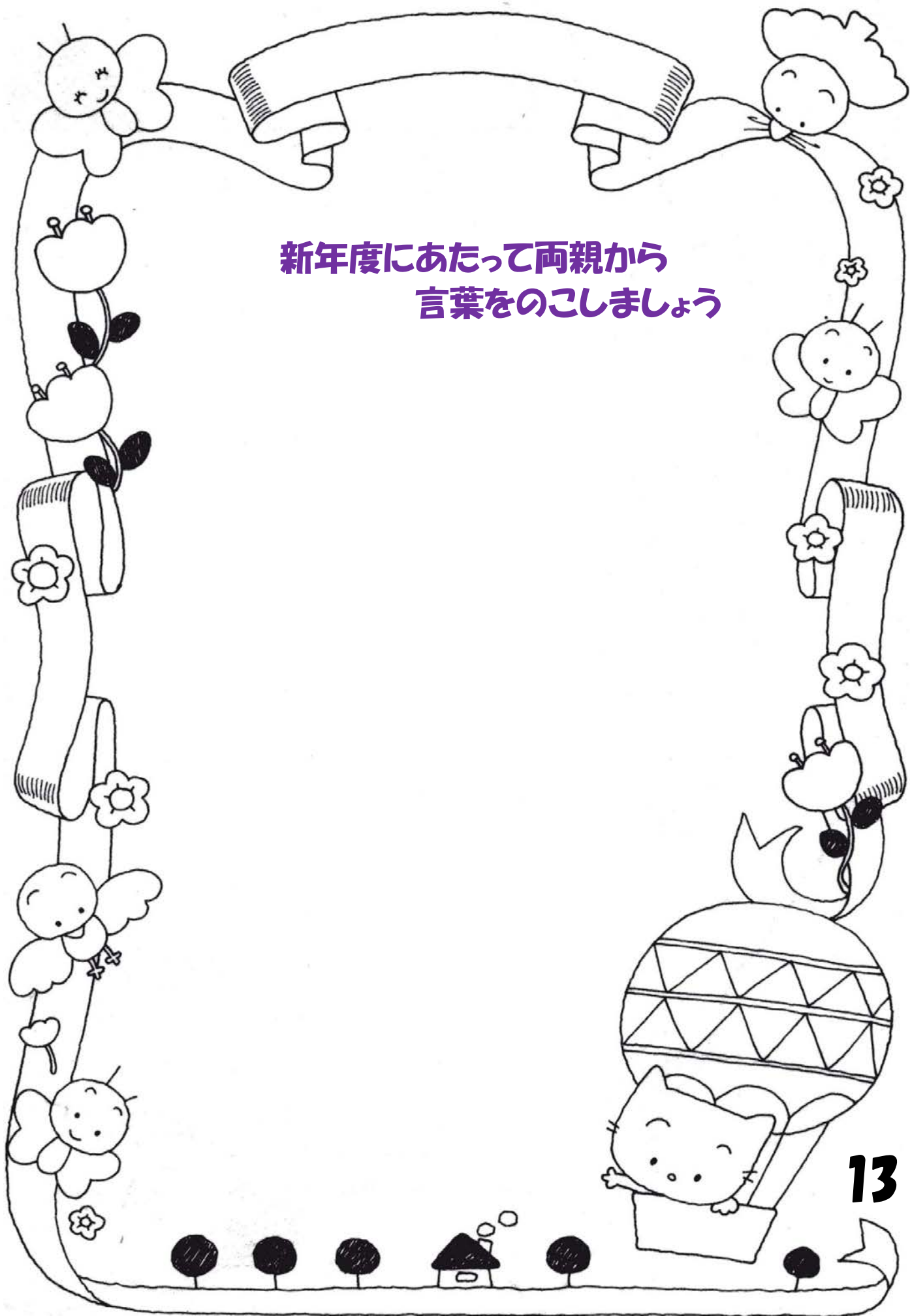
### 【暮らしとつながり】

- 1、労働や運動、休養と食事がうまくバランスがとれた一日だったか
- 2、ビタミン、強壮剤がかたよらない一日だったか
- 3、栄養や健康作り、食生活の向上について知っている知識をいかせたか

参照 足立己幸氏の「ちいさいなかま」

気になった点、特に注意したい事をメモしておきましょう。  
【メモ】

新年度にあたって両親から  
言葉をのこしましょう



## 春の芽ぶきの中で

### \*言葉かけ\*

初めての集団生活で緊張や不安感から大変不安定な状態です。『頑張ってるね。』『しっかり先生のいうことをきかないとだめよ。』等子どもが不安になったり負担になる言葉はさけ、『どんなおもちゃがあるかしら、たくさん遊んでらっしゃい。』等、園が楽しくなるような言葉掛けをしましょう。環境の変化から、家に帰ってからいらいらしたり、行動が乱暴になったりすることがあります。細かいことでも、変わったこと、心配な事がありましたら、担任とその都度連絡をとりましょう。

### \*楽しさ\*

お絵かき、歌、何においてもまず楽しさを知ることが先決です。どんな絵を描いても良い所を見付けだし、どんな歌いかたをしてもよく聞き、まずは認めて、誉めてあげましょう。

### \*質問\*

園から帰ったら、何があったか続けざまに質問するのは控え、子どもが話し出すまで待ちましょう。緊張がとけて、自分から話したら、今度はじっくり聞いてあげましょう。

### \*手の届く所に\*

身近に絵本を常に用意してあげましょう。無理強いはいけません。子どもが自ら手を出すまで待ちましょう。ただ子どもと常に良く話し、今最も興味を持っている物を把握しさりげなく傍に備えてあげましょう。

### \*生活のリズム\*

登園時間に遅れないためには生活のリズムを作る事が大切です。起床時間、就寝時間をきちんと定めたいものです。しばらくは例外をつくらずリズムをつくりましょう。

### \*朝食\*

朝食をとるということは、夕食をとることよりも大切な一日の始まりの仕事です。睡眠を十分にとらせ朝食をきちんとすませ大便をし、余裕をもって登園させるようにすることが園での充実した一日をつくります。

### \*獅子の親\*

獅子の親は千尋の谷底へ子どもをつき落とすそうですね。子どもを手許から離すのは勇気と覚悟がいるものですが、親の心構えが揺るぎないものであればあるほど子どもも懸命にそれにこたえるというものです。

### \*発熱\*

疲労、興奮による発熱もみうけられる頃です。子どもの緊張に対する疲れを子どもの立場に立って考えてやり神経質にならず気を配ってあげましょう。

### \*絵本\*

この頃は、事柄のはっきりした文字の少ない美しい絵の物を選びたいですね。絵をみて話すことによって想像力を身に付けます。あまりすじをおわず、自由な発言を促しましょう。





## つゆの空を見あげて

### \* 自己主張 \*

園生活にも慣れゆとりが出てくる一方、緊張感が和らいで自己主張が強くなってきます。話しかたも一方的になったり聞き分けが悪くなったように感じるかもしれませんが頭ごなしにせず話を聞いてあげましょう。子どもの心が落ち着きます。

### \* 行動範囲 \*

親が知らないくらい子どもの行動範囲は広がっていきます。事故がなければこの子どもの交流は大切にしてあげたいものです。出掛ける時には行き先をはっきり言う習慣を付けしっかりと親同士は連絡をとっておく必要があるでしょう。

### \* 時の記念日 \*

園でも時計を作ります。就寝、起床時間等このような機会をとらえて生活に密着した興味のひきおこしかたをするのも良いことです。『教える』のではなく『生活体験』として…。

### \* ワンタッチ傘 \*

レインコートや傘で視界が狭くなりがちです。配慮しましょう。また周囲の事を考えない年齢ですのでワンタッチ傘はさけたいものです。

### \* 好奇心 \*

子どもと共に感動したり好奇心を持ったりしてあげましょう。共に喜ぶということは、子どもに生きた言葉を身に付けさせる事になります。



### \* 経験 \*

子どもは何でも自分でやろうとしはじめます。親はその気持ちを大切に邪魔してはいけません。経験する事は、考える、創造することにつながります。利口な子になるためには知識を詰め込む事だけでなく遊びを十分にさせる事です。

### \* スイッチ \*

梅雨の頃はテレビを見る機会が増えます。続けて見る時間は30分以内が望ましいのですが、番組の間の5分でもスイッチを切って見るように心がけてみましょう。頭に入ってくる量と感覚が違ってきます。

### \* 熱中すること \*

子どもにとってはくりかえし遊ぶ（取り組む）事が最も大切な事です。子どもが興味や関心を示さないことは無理におしつけないことです。子どもが熱中して遊んでこそ初めて効果が上がるのです。興味と関心こそが伸びる糧です。

### \* てるてるぼうず \*

子どもと一緒にてるてるぼうずを作ってみましょう。曇った窓にお話をしながら絵を描いてみましょう。長靴の長さをもとにして水たまりの深さをはかってみましょう。ほら、雨の日も楽しくなってきます。頭の切りかえはそう難しい事ではありません。お母さんの心掛け一つです。

## おいひめとひこぼし

### \*そっと声援\*

ファミリー発表会では楽しい歌を歌ったり、発表をして嬉しくて嬉しくて目がキラキラと輝いています。でも子どもの心は楽しさだけではないかもしれません。練習での疲労もあることでしょう。『間違えないのよ。』と負担になる言葉はさけ、だまって見守る事も時には大切です。励ましているつもりがかえってマイナスになっていることもあります。

### \*再チェック\*

遊びのおもしろさを知りはじめ、遊んだ後の片付けがいいかげんになったりテレビに熱中するあまり、すいこまれるように見るようになって視聴態度が悪くなることがあります。生活態度を見直してみましよう。初心に戻る事はいつの時にも大切です。

### \*砂遊び\*

大人にとってなんでもない事に見える砂遊びも子どもにとってはあらゆる意味での欲求不満のはげぐちとなっています。砂遊びは創造力や思考力を養いながら、子どもの心にたまったもやもやの浄化作用をしているのです。洋服がたくさん汚れたあととほどスッキリした気分にいると思えば、洗濯するのも大変なことではありません。

### \*先生批判\*

子どもにとって先生の存在は大人が思っている以上に大きいのです。子どもの前で先生の批判をされますと子どもの心が傷くことがあるかもしれません。心の中でどう感じていても子どもの前ではそれを現わさないことが結局子どもの徳になるのです。

### \*製作物\*

子どもの持ち帰った製作物は飾ってあげ、家族の話題にしてあげてください。製作意欲が刺激されます。品物を大切に作る心が育ちます。保存できない物はカメラに収めてアルバムに貼ってあげましよう。

### \*殺菌の中で\*

自分の子どもさえよればという考えは捨てましよう。子どもは、子ども同士のかかわりの中で刺激され育ち合うのです。無菌状態にすることは不可能です。むしろ雑菌の中で、丈夫にたくましく育てる方がその子の人間としての幅を広くします。

### \*七夕\*

子どもと七夕飾りを一緒に作ってみませんか。皆の願いを短冊に書いてみましよう。お父さんにも参加していただいて。星についてのお話などもしてあげましよう。楽しい夜がすごせそうです。



## 楽しい夏休み

### \*ごっこ遊び\*

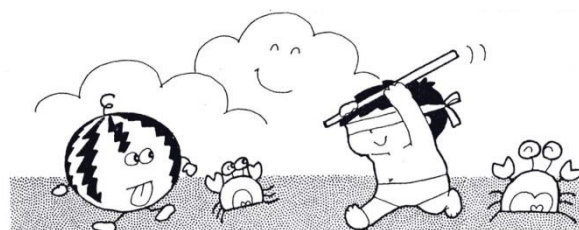
ままごと遊びに代表される『ごっこ遊び』は子ども達の生活経験が基本になった遊びです。経験の少ない子どもはおもしろさがわからなかったり、興味がわからなかったりします。ご家庭でも、近所の買物へ子どもを連れて行ったりし、機会を捕えて街の様子に気付かせるなど社会生活にも目を向けさせましょう。

### \*生活表\*

子どもとよく相談して生活表などを作り子どものできる範囲で守れるような約束を決めやりとげたという満足感を与えましょう。また特に、4歳は4歳なりに当然な事をしたときにもそれを誉めて奨励してあげたいものです。

### \*情報交換\*

お母さんはお父さんとまめに情報を交換しましょう。たとえ母親が子どもに接する時でも、お父さんの考えも含めた上で接していかないと子どもは器用にあっちについたり、こっちについたりしてしまいます。



### \*夏の体験\*

夏には夏の体験をさせましょう。花火をするのもいいですね。夏はあっというまに過ぎてしまいます。そして夏はもう一度めぐってきますが今年の夏はこれきりなのです。

### \*テレビ\*

テレビは良いにつけ悪いにつけ子どもに大きな影響を与えます。子どもにとって切り離せないものならば情報源として良いものを見つけどんどん活用しましょう。テレビを子守りがわりにするのは避けたいものです。視聴後はみせっぱなし、きかせっぱなしはやめ話し合いを活発にしましょう。話し合いを通して子どもの物の考え方や見方をつかみ子どもの新しい発見をしましょう。

### \*社会のしくみ\*

買物などを通して物はお金を出して買うのだというような社会のしくみを実際の場を通して教えましょう。また機会を捕えて交通道德や公衆道德についても理解させましょう。外出時の手本はお母さんです。身をもって示しましょう。

### \*あいさつ\*

人と人との交わりが円滑にできなければ、心豊かな社会生活は送れません。その手助けとなるのがあいさつです。

夏休みは親戚等に行く機会も増します。きちんとしたあいさつも子どもなりにできるよう教えておきましょう。それにはお母さんが率先してあいさつをすることです。また大人が話している時に静かに聞くということも大切なことです。

### \*おまつり\*

地域社会のグループ活動には積極的に参加したいものです。社会性が培えます。両親は我が子さえ良ければという態度は改めて他人の子どもについても正しい指導をしましょう。

## お月見

### \*認める\*

子ども達は力いっぱい演技をしたり、友達の応援をしたりします。努力していた点をとらえて認めてあげ、今後の励みとなっていくような言葉かけをしていただきたいものです。大人でも認められると嬉しいものです。

### \*共通の話題\*

夏休みを経験したことより、友達と共通の経験を持つことができ、それを元に友達とのおしゃべりが活発化します。園での話題を家に帰ってからどんどん話せるようになります。ゆっくり聞き取り、親子共通な話題となるようにしましょう。

### \*「しかる」と「おこる」\*

子どもを育てる上では時にはしかることも必要です。「しかる」には客観性はありますが「おこる」は感情的です。子どもには怒らないで叱って注意をうながしたいものです。

### \*喧嘩の仲裁\*

子どもの動きが激しくなり、友達との交流も密度を増し同時にぶつかりあいも多くなります。遊びの約束を守らない子どもに対して怒ったり、喧嘩の仲裁で口より先に手がでてぶつたりします。そして子どもは物事を主観的にとらえています。怒られたりぶたれたりしたほうの子どもの話だけ聞いて判断すると見当違いの事があります。

### \*冒険心\*

冒険心は子どもの成長の上で欠かす事のできないものです。危険と裏腹の物ですが必要以上に臆病になっては子どもの正常な発達は望めません。

### \*下品な言葉\*

言葉の活発化により、下品な言葉をおもしろがって使います。大人がそれにこだわり過ぎると子どもはかえってそういう言葉にひっかかり、さらりとながせなくなります。叱るより気持ちをくんで、良いことばに置換えて返事したり笑いとばしてしまったほうがよいこともあります。真に身に付いているのではなく、単に言葉の運び屋さんをしている場合が多いからです。

### \*薄着の習慣\*

今から薄着の習慣をつけたいものです。

1. 活発になり、充分に体を動かす事で身の安全を守る。
  2. 生活習慣の自立を助け行動に対する自信を持つ。
  3. 皮膚を鍛えられる。
  4. 病気への抵抗力が付く。
- 等の利点があります。

### \*お月見\*

お月見等は家庭で手軽にできる季節の行事です。心掛けて子どもとの時間を持つように是非やって欲しいものです。子どもと一緒におだんごを作ったり、月を見ながらお話なんて、素敵ではありませんか。



## 秋の夜長

### \*ガキ大将\*

良い意味でのガキ大将がいなくなってきた気がします。子ども達も同年齢の子ども同士とは遊べるけれど、異年齢の子どもと遊べない子どもが多くなっています。周りにいる大人達が、子ども達が集団の中で育ちあうための小さいざこざ、かかわりあい、大きないじめとしてとらえずぎてはいないでしょうか。時には親が「ガキ大将」になって子ども達を引っばってみる必要がありそうです。

### \*健康管理\*

秋から冬にかけての健康管理は、気候が良いからとおろそかにしがちです。良く入浴して手足を清潔にして、ひび、しもやけの予防をしておきましょう。だんだんかぜも流行します。薄着、うがい、手洗いの習慣、栄養のバランスなどちょっとした配慮が小さな子どもを守ります。

### \*夕食の時間\*

夕食の時間を家庭での一日の出来事を語りあう場にしましょう。それにはテレビを消す事です。同じテーブルにすわりながら互いに会話が一言も無くテレビに視線が集中しているなんて寂しいことです。

### \*生活の絵本\*

この頃は子どもの身近にあるもの、子どもが良く知っている物、子どもにとって親しみやすい良く慣れた毎日の生活に出てくる物を選びましょう。

### \*忙しいお父さん\*

日頃忙しくて子どもと対話ができないお父さんには、お帰りになってから子どもの寝ている耳元でそっと二、三語りかけてもらいましょう。寝ていてもその言葉は脳の奥深くに響き、お父さんと楽しい夢を子どもに運んでくれるでしょう。

### \*お話の宝石箱\*

子どもとのなげない会話の中で、きらっと輝く宝石のような人の心を打つ言葉を見つけることがあります。これは大人にはとても考えがつかないすばらしい詩です。家計簿の備考欄でも、日記の端にでもちょっと書きとめておきましょう。すばらしいお話の宝石箱ができあがります。

### \*秋の風物\*

公園にはたくさんの渡鳥が来ます。園庭でも葉やどんぐり採りが楽しみです。野外で親子と、あるいは近所の子どもも交えて遊び、思い切り秋の美しい風物に接しましょう。情操が豊かになるとともに、自然への関心が深まります。



## こたつの準備

### \* 勤労感謝の日 \*

働く事の大切さを母親が機会をとらえて教えてあげたいものです。働く事がどんなに素晴らしい事が気付かせましょう。子どもの前で働いているところを日頃見せる事が少ない父親についても、尊敬の念を持つよう働きかけたいものです。上辺だけではなく心がこもった感謝の挨拶ができるようにしましょう。

### \* ごっこ遊び \*

ごっこ遊びが盛んになります。出かけた時には町の様子をよく見せたり、働いている人に関心を持たせたりしていく事が、大切な経験の積み重ねになります。この経験がないと、遊びを理解することができません。年の暮れはいつもと違う町の様子です。その違いにも気付かせましょう。

### \* 敬遠 \*

はじめてのことには、「いやだ」「できない」と敬遠を始めます。すればできるのに、したくないと試してみたいのです。無理強いしないで、ひと呼吸おいてさせてみましょう。案外すんなりやりはじめます。

### \* 絵本 \*

前後のつながりが分かるようになりはじめます。シリーズものも取り入れはじめましょう。話の続きを連想させて楽しませましょう

### \* 影絵 \*

家の中では影絵を写してみましょ。お正月遊びに準備も始めましょ。去年使ったカルタも見直してみましょ。トランプや数に興味を持ち始めるころなので、おもしろがるゲームをゆっくりしていきましょ。

### \* ダラダラテレビをやめるには \*

テレビをダラダラと長時間見ることは好ましくありません。ダラダラテレビをやめる方法はテレビを見ない時間を充実させることです。テレビは例外をつくらないでお父さんにも協力していただいなおしましょ。

### \* ボタンかけ \*

ボタンかけがチグハグになっていつまでもできない場合、パジャマ等のボタンとその下の布の部分に上から見て「お」「や」「す」「み」とか「お」「は」「よ」「う」とか書いてあげましょ。「お」と「お」、「や」と「や」を口で言いながらあわせる内にだんだん上達していきます。そのうち書かなくても上手にできるようになります。



## 北風と凧揚げ

### \*カルタ トランプ\*

カルタ、トランプから文字の拾い読みを始めることもあります。家族でゲームの楽しさを味わいながら、文字や記号への関心を深めましょう。またルールを守らねば他人と一緒に楽しめないこと理解させましょう。

### \*ほめて 認めて 励まして\*

人から認められるとことに喜びを感じ始めます。お手伝いのきまりを作り、実行できたときはほめて認めて励まして、つぎのステップへつなぎましょう。

### \*左きき\*

劣等感をもたせないためには、左ききのひとも大勢いる事を知らせる事、お母さん自身がその事をよく心にとめて、子どもの左ききを嘆く気持ちを持たせないようにする事です。内心、困った事だと思いながら、口だけでいい聞かせても、説得力がなく子どもはひけめを感じてしまいます。強度な左ききでないなら文字だけは右でかくようにしてもよいでしょう。ですが、両手ききなら右ききのおよぶところではありません。

### \*話すことと発表すること\*

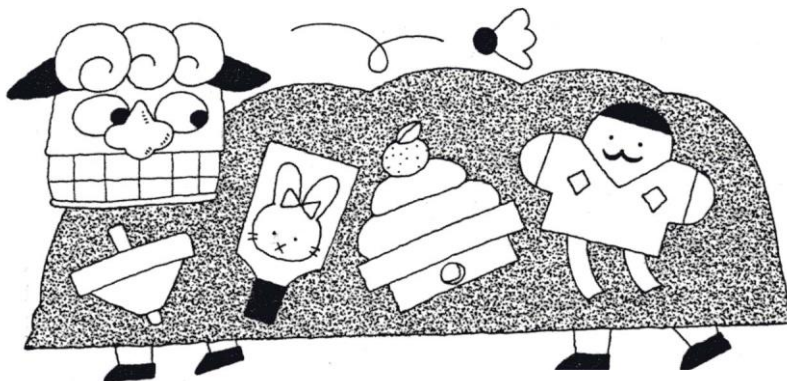
友達同士の会話が豊富になり、おしゃべりが盛んになります。しかし半面、皆の前で発表することに自信のない子どもが多いのも事実です。家庭の中でも、年頭に当たっての発表をさせたり、答えたりする機会をもちましょう。

### \*インフルエンザの流行にそなえて\*

風邪やおたふく風邪が流行する頃です。日頃から厚着をさけ、うがい、手洗いを励行し、病気になった時は早めに休ませ十分な栄養と睡眠をとりましょう。子どもの病気は悪くなるのも、良くなるのも早いのです。すっかり良くなってから登園させたいものです。大人の都合や休ませる事にこだわったのでは子どもがかわいそうです。

### \*冬の産物\*

冬でなければ見られず、教えられないものがあります。例えば雪や氷や霜柱です。氷が冷たくて固く水に浮き、透き通って溶けるということ、雪が降ったら雪の白さ、くっつくこと、溶けること、花のような結晶をもつことなど、手に触れさせ、実感させたいですね。



## 小鳥のさえずり

### \*話し合い\*

夕食後などに今日したことを両親と子どもが話し合うことは素晴らしいことです。子どもの外での出来事が手にとるようにわかって一石二鳥です。

### \*保存\*

この一年間に書いたもの、作ったものを取りだして、一年の歩みを振り返りながらおしゃべりする場を持ちましょう。そして保存しておくものはきちんと整理してあげたいものです。

### \*数のキャッチボール\*

記憶力が良い子は年長組を前にしてどんどん数を覚えます。十くらいまで言えると拍手を贈りたいところですが、そうできないところが数の難しいところです。これは数がわかるということと、すらすら言えることとは違うからです。数に興味を持ちはじめたら「数のキャッチボール」を始めましょう。親と子で交互に1, 2といったり、逆に言ってみたり、一つとび、二つとびに言い合いっこするのです。こんな日常のやりとりが自然と子ども達に数字の前後の関係を理解させます。

### \*全体を把握する力\*

内容を把握する力がどれくらいついてきたか観察してみましょう。文字や数が判るよりも全体を把握する能力の方が大切です。

### \*子どものために\*

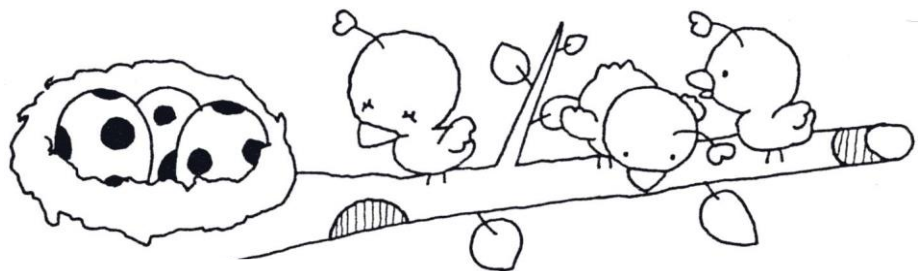
積極的な子どもも自己主張ができるようになり、衝突もおきますが、それなりに相手の立場で考える事ができるように成長しています。役割分担や目的をもった遊びの展開ができるようになります。その中で一つの目的を持って役割を分担したり、今自分がどう行動したらよいか考える場を与えてあげたいものです。何もかも大人が与えるばかりでは子どもの自主性は育ちません。「子どもの為に」がある意味で仇になっていることもあります。

### \*年長組になる\*

無理のない自覚を持たせかたをしたいものです。まだ年長組になることは十分理解されないのが期待と不安が半々にまじっている状態だからです。「年長組になるのだから」などと要求があまり強いとせっかく積みあげてきたバランスを崩してしまいます。子どもと共に年長組になることを喜び合う親でいましょう。

### \*春の野原\*

春の野原に出かけてみましょう。子どもを風の子にしたかったら親が寒さにめげず、山や野に子どもとともに遊び自然に親しむことです。春の野は恵みのものを豊富にそろえ、子どもを自然に親しませる絶好の機会です。ふきのとうでふきみそを、よもぎで草餅を、つくしんぼでおひたしを、料理し味わえたらなんと素敵なことでしょう。





## 言葉を育てるつきあいかた チェックポイント 6

1. 子どもの前ではっきりした口調の正しい言葉で話しましょう。  
お母さんの言葉遣いがうつります。アクセントについても同様です。
2. 子どもの話しの先取りはやめましょう。  
話しの先取りをするとだんだん話さない子になってしまいます。  
話す必要がないからです。
3. 子どもとよく話し合しましょう。  
話してもつまらないという気持ちをおこさせてはいけません。  
真剣に耳を傾けお母さんも答えましょう。
4. 絵本を読んであげたり、お話を聞かせましょう。  
お母さんの小さい頃の体験談など、絵本やお話は言葉を育てる重要な  
仲立ちとなってくれます。
5. 子どもと共に感動し好奇心を持ちましょう。  
身の回りの事にお子さんが興味や関心を持つことは、言葉と体験を  
結びつけた生きた言葉が生まれます。
6. 子どもの質問や話題に根気よく丁寧に応じましょう。  
子どもの興味や関心を深めることができ、一緒に調べたい話しあう  
ことで言葉とともに物事への理解を深めます。

自分のことを好きになるために、そして自信持って進むために、  
やってみてほしいことがある。

### \*セルフ・トーク(自分への語りかけ)

「笑顔がすてき」「有能だよ、ほんとに」「いまにぜったい成功するよ」「よくがんばったね」毎日、鏡の前に立ち、自分の目をじっと見つめて、あなたが心から、こんなこと人から言われたらうれしい、と思う言葉を声に出して言ってみる。信じられないかもしれないけど、そうすることで人生は変えられる。

—— 人間って、けっこう単純なんだ。

毎日、これをやっていると、顔の表情や歩き方、姿勢まで変わってくる。あなたの変化に気づいた人たちが、「最近、雰囲気が変わったね。何かいい事あったの?」と聞いてくるだろう。

### \*大好きなことをする

大好きなことをしよう。趣味でもいいし仕事でもいい。あなたが大好きなことって、なんだろう。大好きなことを書きだしてリストづくり、鏡の横やベッドの上に貼っておく。お花を一輪買ってくるとか、いい匂いのするお風呂にゆっくり入るとか、散歩をするとか、手紙を書くとか。シンプルでお金のかからないことでいい。一週間に必ず一回は、大好きなことをする。かけがえのない人生だから、満足のいくものにしよう。

### \*イメージ

夢を現実したいと思ったら、その夢が実現したところを心に思い描いてみる。可能性は無限にある。イメージを描くための時間と空間を用意して、自由に想像しよう。

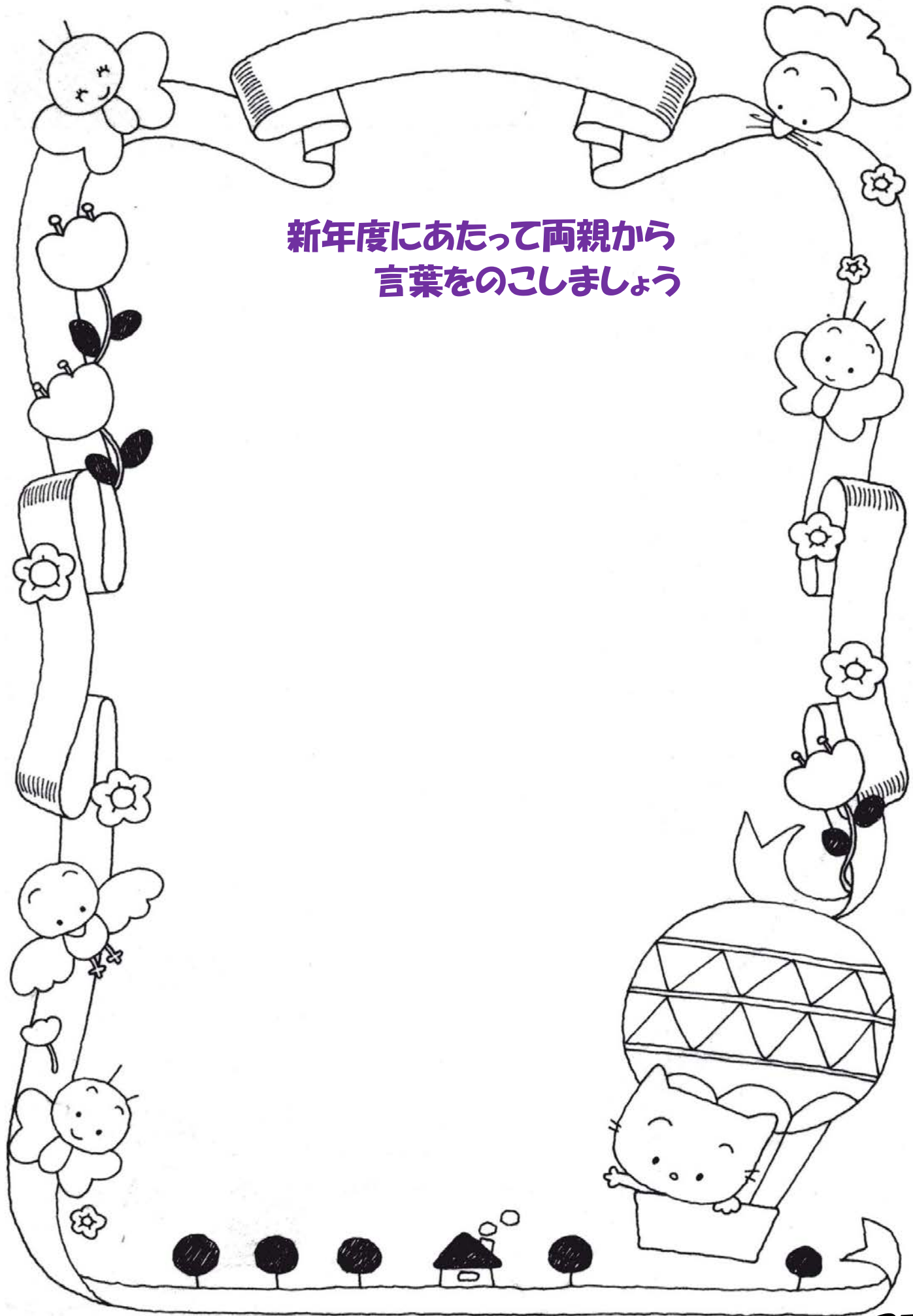
自分が書いた本を手になっている自分。  
コンサートホールで歌っているところ。  
仕事で認められ、責任ある地位についた自分。  
キャンパスに向かって絵を描いているところ。  
交響楽団を指揮している自分。  
自分の店が、お客さんでいっぱいになっているところ。  
洋服や指輪をデザインしている自分。

そのイメージがあなたのゴールだ。描いたイメージを心のなかに持ち続けていよう。そのイメージが、夢に向かって進むあなたを励まし、あなたの背中を押してくれる。

ゴールに立っている自分の姿がイメージできれば、夢は必ず実現できる。

パットパルマー著  
「夢をかなえる本」

新年度にあたって両親から  
言葉をのこしましょう



4～5 歳

## おおきくなったね！年長組

### \*手伝い\*

満三歳児・年少組・年中組が入園し世話をしあげたい気持ちが生まれます。家族でも弟妹の世話の手伝いがうまくできるよう言葉かけをしあげましょう。上手に出来なくても、手伝いをしようとした事に対して、その行為をしっかり誉めてあげてください。人の為に役立つ喜びを味あわせましょう。

### \*テレビ計画\*

家族で見たいものを全部書き出し、話し合いの場を持ってみましょう。チャンネル、時間帯を主に内容についてもどうして見たいかなど聞いてみるのです。子どもに主導権をとらせ司会をさせるのも良い方法です。

### \*クラス変え\*

保育室が変わったり、満三歳児・年少組を迎えたりして、精神面ではかなり緊張し不安定な状態がみられますので『もう年長組なのだから…』等、子どもが負担になるような言葉かけは避けるようにしたいものです。

### \*いってきます\*

幼稚園に慣れてくると親も子どもの『いってきます』にぞんざいに答えてしまいます。目と目を見つめて言葉をかけるという小さな事が子どもの人格向上につながる大切な事ということを忘れないようにしましょう。

### \*自覚\*

年長児になった喜びと自覚を大切にしてください。ある意味で、大人になったような気分があります。生意気な口をききはじめるのもその現われの一つです。成長と受け止め、まずは認めてあげたいものです。

### \*子どもの言葉\*

子どもたちは自然の中で思いがけない発見をしたり疑問をいだいたりします。子どもの言葉を良く聞き、子どもと一緒に感激したり、考えたりできる親でいたいものです。

### \*図鑑\*

動植物の生態に興味を持ち注意して見る態度が芽生えています。絵本と共に簡単な図鑑を備えてはいかがでしょうか。



### \*家庭での役割\*

家庭で毎日行なうこの子にだけの役割を作ってあげましょう。そして、そのことに対して親は『口をださず、手をださず、目を離さず』の精神でいきましょう。下手に口、手を出す事は意欲をそいでしまいます。少しくらい失敗したっていいではありませんか。お母さんだって最初から何でも上手ではなかったはずです。

### \*読書感想会\*

読書後、親子で簡単な内容でよいので話し合う事は、その話の内容を深めたりイメージを豊かにすることができます。読んだまま、見たままにせず一つ一つ心にとめていくように心掛けましょう。

## 雨の日のお話

### \* 思いやり \*

新しいクラス、担任にも慣れ、心に余裕が出てくる時期ですが、まだ協調性に欠け他人を思いやるというところまで達していません。周りの物すべてに思いやりの心を持つよう言葉をかけましょう。母親自らが、その態度を示さなければ子どもに思いやりの心は育ちません。

### \* ニュース \*

家にいる機会が多くなります。毎日のニュースをとらえて話題にしてみませんか。それらを基にして会話を広げることができますし、社会事象に興味を持たせる事ができます。また体験できない事も身近に感じさせられます。

### \* 選り好み \*

クラスの中の性格や能力が分ってきて友達の選り好みをする傾向がみられます。個人差が目立ちはじめグループ遊びを好むようになると同時にグループでのコミュニケーションもみられます。あの子と遊んではだめと言わずにここは子どもに判断をゆだねてみましょう。一時的なものもありますので…。

### \* 食事の仕度 \*

食事の手伝いをさせてみませんか。箸は二本で一膳とか生活に密着した数の指導にもなります。おもしろさがわかると自分の身の回りの事を進んでしてくれるようになります。

### \* お話づくり1 \*

雨の日、お母さんとお話作りなどいかがでしょう。古い絵本、雑誌を切抜き自由に子どもにお話をさせてストーリーを作っていくのです。想像力や創造力、思考力、表現力が育ちます。また、絵を見て話す絵を読み取るということはこれから始まる『読む生活』の基本となります。

### \* お話づくり2 \*

お話をつくる土台となるものは、興味のもちかたや、理解の深さ、経験です。つじつまがあわなくてももおおらかに話をさせましょう。お母さんが真剣に聞いてあげることもとても大事な要素です。いくらロボット時代が来ようとも人間にしかできない事は創造し考えることです。

### \* 父の日 \*

父の日を通じて日頃じっくり話をしたことがないお父さんとの二人だけの時間をもうけてはいかがでしょう。お父さんにしか経験できないような色々なお話をしていただきましょう。

### \* お父さん \*

お母さんが不注意に他の男の人でも批判したりすることは自分のお父さんの軽視に繋がり、父親を尊敬しなくなる原因の一つになります。子どもは自営業の家庭以外お父さんが外でどんなに働いているか理解しにくいのです。お母さんがお父さんあってこそその家庭ということを身をもって示し、お父さんをたて尊敬してこそ子どもが父を父として認めるのです。

## ファミリー発表会の音色を聞きながら

### \*役割\*

発表会では子どもたちが大事な役割を担当します。一人一人がいてこそ大きなクラス作りとなるのです。どれも削れない大切なものです。何をやるのが大切なのではなくその役割を如何に頑張るかが重要なのです。そのためには出来ていることに焦点を当て、ほめて認めて、励ましてあげましょう。

### \*家庭の雰囲気\*

色々な楽器に触れ、音楽を愛し、楽しむ豊かな心が芽ばえています。家庭でも音楽を身近に感じさせる雰囲気を大切にしてください。お母さんが歌が嫌いで家でハミングもしないのに（上手でなくてもよいのです。）子どもに音楽好きになれというのは無理というものです。

### \*子どもの人格\*

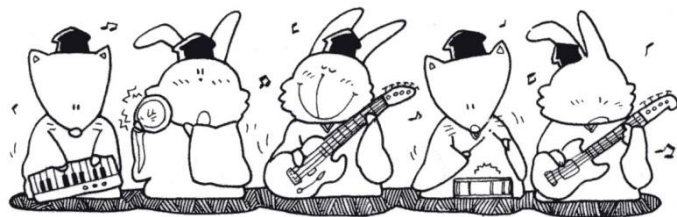
友達と意見が分かれても、話し合っ解決する態度が見えてきます。家庭でも生返事や逃げの答え方はしないで一人の人格として接してあげましょう。子どもは大人の小型ではなく一人の立派な人格を持つ人間です。

### \*レッテル\*

『一人っ子だから』とか『おばあちゃん子だから』とかいって改めるべき事をほったらかしにしていけないでしょうか。今から大切な事は、親の考え方の柔軟性です。子どもに対するイメージを固定せず対応していきましょう。

### \*調べる\*

テレビ視聴後、百科事典や動植物図鑑で調べる癖をつけましょう。実際に動植物園等に出掛けてみるのも興味を深めます。



### \*なぞなぞ\*

なぞなぞやしりとりに興味を持ちはじめます。わざわざ、なぞなぞをはじめましょうとかまえないでその場その場の状況をとらえて、推理できるような問いかけをしましょう。会話のきっかけにもなります。スリーヒント遊び等も喜びます。これは筋道を立てて考える態度を育てます。

### \*親の出る幕\*

好きな友達を取りあったり、独占しようという気持ちが強くなりトラブルが増えてきます。親に訴えることも上手になります。まだまだ物事を主観的に捕えている面が少なくないということを知っておきましょう。ここぞという時（例えば危険性がある時）以外、親は出ないほうが賢明でしょう。

### \*ラジオ\*

たまにはラジオもいいものです。見る事よりも聴く事の方が集中力が必要です。聞いて考える態度は小さい内でないと身につけません。

### \*キャンプ\*

ワンデーキャンプを通して自立心を育てましょう。一人でやれたという自信はその後の生活に大きな影響を与えます。この機会を通して、子どもの自立心を一歩進めましょう。

## 海の探検

### \*いたわり\*

夏休みには花や虫を採集する機会が増えます。採集することに目的をおくのは小学生からです。幼児期はその過程を大切にしましょう。採集する時だまって採るのではなくその都度、ひとこと声をかけいたわりをもって扱きましょう。

### \*マッチ\*

マッチは子どもにとって危険な物です。でもむやみに禁止せず花火等を通して使わせてみる、経験させてみる事も大切です。好奇心をまず満たしてから火の危険性についてじっくり話します。言葉だけの禁止やあっちいけ方式では、好奇心をつのらせマッチのいたずらを繰り返すことになります。このことを良く考えないと注意しているつもりでかえって事故を招く事になるでしょう。

### \*番組表\*

家族で話し合っ、見たい番組の夏休み分の表を作ってテレビの横に貼ってみましょう。家族みんなのためにお互いが我慢することを覚えます。

### \*交通事故\*

原因のほとんどは飛びだし、横断不注意です。日頃から左右をよく見て歩行するように習慣付けたいものです。親子の自転車の二人乗りもできるだけひかえましょう。

### \*暑中見舞い\*

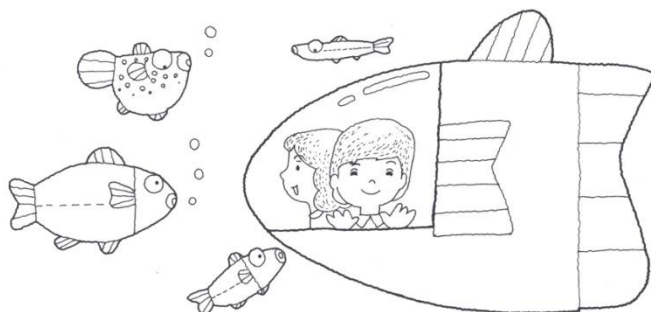
暑中見舞いを一緒に作成してみましょう。そこから親子のコミュニケーションが図れます。また、日頃知らない遠くの親戚や知人などの認識を深め血の繋がりなどといったことも興味を持たせられます。多くの人のお世話になり、一人で生きているのではないのだという事も話して聞かせてあげられます。

### \*言葉の先取り\*

自分の欲求や困った事、感じた事を正確にうまく伝えるようになるためには、お母さんが話の先取りをしないことです。あまり話の先取りをしすぎると子どもは話をする必要性がなくなってだんだんと、話さなくなったりどもりになったりします。まどろっこしくても最後まで聞いてあげましょう。

### \*思い出のアルバム\*

夏休みを利用して思い出のDVDを作ってみましょう。子どもはDVDを見るのが大好きです。自分の声や姿が流れてくると大喜びで何度も見たがります。自分の姿や声がそっくり出てくるのが不思議であったり、おもしろかったりするのでしょうか。そして時々昔の物を再生してあげましょう。成長と変化を子どもなりに感じとる事ができますし、正しい言葉遣いや行動の練習にも役立ちます。



4～5歳

## スポーツフェスタへの意気込み

### \*競争心\*

競技で負けたとか、走るのが遅かったなどという結果だけを評価しないで、最後までやりとげたという満足感を味あわせ次の活動への意欲をもたせていただきたいものです。みにくい競争心ではなく、良い意味での競争心は大切にしたいものです。この心の刺激があるからこそスポーツの記録が更新されるのです。

### \*スポーツフェスタごっこ\*

競争意識から速度、長短、多少など比較して理解力が進みます。教えこむのではなく遊びや競争を通してわからせましょう。家庭でもスポーツフェスタごっこなどやってみるのも楽しいものです。

### \*マーチング、組体操(ゆりの樹フォーメーション)、リレー\*

暑い中を練習に励んだマーチングや組体操(ゆりの樹フォーメーション)を通して「自立する心」「協力する態度」「規律を守ること」など大切な心構えができ、やれば何でもできるんだという自信に満ちています。スポーツフェスタの出来事、不出来より練習の過程で学ぶことの方が大きいのです。

### \*スポーツ精神\*

スポーツ精神は人間の持つ競争心を昇華させるものです。せっかく芽ばえた競争心を良い意味に活用したいものです。

### \*がんばり\*

同じように遊んでいるように見えても体力をギリギリまで出しきって遊ぶ子どもと、適当に休息しながら遊ぶ子どもがいます。体力をつけるためには、体力の限界に近い状態のエネルギーを使う運動を繰り返し行う必要があります。運動会を前にして毎日の練習は考えようによっては適度に休息する子どもにとって良い体力作りの期間となります。

### \*片付け\*

子どもにさせるとよけいに散らかるからといって、片付けを親が手早くしていませんか。運動会を通して、用具等を上手に片付けるようになっていきます。「よけいなこと」という前に一緒にさせてみましょう。

### \*絵本\*

理解力も進むので図鑑的なもの、詩のようにきれいな言葉が入っているもの、動物の生態、昔話、外国のものなど取り入れてみましょう。

### \*秋の風物\*

草むらには虫が鳴きはじめます。スズムシ、ウマオイムシ、マツムシ、エンマコオロギ、クツワムシ、キリギリス、できれば飼ってみましょう。鳴くこえを聞き分けさせてみるのもおもしろいですね。身近に虫がない時は、虫の声のCDもでています。





## 虫のコーラス

### \* 食器や本の整理 \*

棚に並んでいる食器や本は子どもの興味の対象です。これらの物を子どもに整理させましょう。お母さんの手伝いができるという喜びと同時に個々の物の共通点や差異に気付き観察や弁別の力がついてきます。

### \* 異性への関心 \*

男の子は母親に、女の子は父親に自分との違いを見だし確かめようとするのですが成長に即した自然なもので、しかってやめさせようとするほどのものではありません。変な目で見たりするほうが子どもの心を傷つけます。今まで気にならなかった異性も気になりはじめます。スカートめくりなどがそのあらわれです。

### \* 生活のルール \*

時、人、場所に依じて「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言えるように大人がまず実行しましょう。人間生活の大切なルールであることを体で理解させたいものです。

### \* テレビ視聴会 \*

視聴後絵をかかせたり、感想をかかせましょう。注意して番組を見る習慣がつく上にどうしても見たい番組しか見ないという効果も出てきます。

### \* 責任転嫁 \*

子ども同士で責任転嫁が見受けられるようになってきます。これは決して本人は嘘をつこうとか罪をなすりつけようという意味は無いのです。仲間はすれにされたくないのです。こんなとき厳しく追及すると性格がいじけてしまいます。大きな視野で子どもを見る余裕を大人は常に持ちたいものです。

### \* 背筋 \*

だんだん寒くなります。背中が丸くなってポケットに手を突っ込んで歩く姿が見受けられます。ポケットに手を入れて歩くのは転んだときバランスを崩しやすいのです。寒い時は手をこすれば温かくなることを教えてあげましょう。背筋もぴしっと伸ばせば寒さも少しふきとびます。

### \* 観察眼 \*

観察眼がするどくなってきて、3歳の頃の繰り返しの質問がまたみられるようになります。知っているも念の為確かめたいのです。「知ってるんじゃないの？」とめんどうがらずにうなずくだけでも答えてあげましょう。目が輝いてくるはずですよ。



## 大晦日とお正月

### \*クリスマス\*

友達と一緒に目的をもって活動することに楽しさや喜びを見いだします。クリスマスやおもちつきなど、ご近所で話し合っって子どもとともに計画してみるのも楽しいものです。季節の遊び「雪合戦」「氷作り」等の自然の関わりも大切にしましょう。

### \*考える態度を身につける\*

身近に起こった事象、現象に興味や関心をもち、疑問に思ったり考えたりする態度が見え始めますので子どもと常に一緒に考えられる姿勢を持ちましょう。分からない事は中途半端にせず「どうしてかしら？ どうしたいと思う？」と子どもに意見を聞き出したり、子どもと一緒に調べてみましょう。この頃になると図書館に連れていくのもよいでしょう。本物に出会わせてあげられたら最高ですね。

### \*エチケット\*

年末年始は家族以外の大人と接する機会が増えます。子どもなりの人とのかかわり方（エチケット）を教えるのに良い機会です。礼節の正しい子に育つ素質は小さいうちに育てましょう。

### \*駅名読み\*

お母さんの実家へ行かれたりするとき、ちょっと駅名表示に気をつけてみましょう。たいていひらがなでもかかれていますので駅名読みは格好の「文字あそび」です。社会の学習にもつながります。進行方向側に書かれているのが次の駅名であることも教えておきましょう。

### \*10大ニュース\*

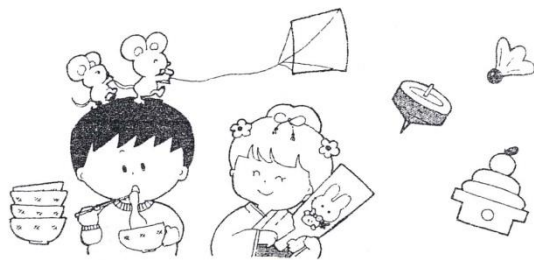
今年一年に家族の10大ニュースを家族団らんの中でとりあげてみましょう。一人一人の10大ニュースを考えてから家族のベストテンをつくってもおもしろいでしょう。発表する力、考えをまとめる力がつきます。自分の幸せを人にも分ける、悲しい事を半減してあげる（自分以外の人にも気をくばる）態度も芽生えます。

### \*思い遣いの心\*

年末恒例になってきた「助け合い運動」、今は季節行事の一つという感がありますが発足当時には深い関心と大きな意義がありました。自分に出来る事があれば手を差し延べるという思いやりの心を培いたいものです。

### \*冬の夜空\*

冬の夜空は美しいものです。オリオン、カシオペアなどみつけ、星座や星の名前を覚えましょう。図鑑等で調べてみましょう。暖かい部屋にとじこもってばかりいないで。



## ふきのとうと春の風

### \*数の言葉かけ\*

文字や数に対する興味が強くなります。大人は文字への言葉かけや注意は払っても案外数には知らん顔です。

一年生になって算数でおちこぼれている子どもの9割が数の言葉の理解が不十分なためです。日頃から生活の中で「合わせていくつ?」といった数特有の言葉かけを忘れないようにしてあげましょう。

### \*数遊び\*

手のかかるアイデアに富んだものである必要ありません。お母さんに無理なくできて、子どもが喜んで取り組むことを数多く勧めてあげることが必要なのです。100と100は200ということは知っていても1つ1つ対応させられないので実地に即してさがしてみましょ。生活の中でたくさん見つけられます。

歩測遊び…「この並木からあの並木まで何歩で行ける?」とあてっこ

飛びっこ遊び…歩道のタイル等をお母さんの指示に合わせ飛んでみる

数えかた遊び…電柱は〇本、犬は〇匹 数えかたを尋ねる

順序あて遊び…バス停行列で「帽子をかぶった人は何番目?」

買物遊び…キュウリ6本、ニンジン3本、あわせて何本? 一人いくつ?

「チョコレート皆に分けてね 一人幾つかな?」と分配させましょ。

などたくさんあります。

### \*カルタ 文字カードを作ってみませんか\*

子どもはお母さんの手作りのものを喜び大切にします。カルタや文字カードをお母さんと子どもと一緒に作っていくなかで子どもは文字に対する興味や関心を持ちます。言葉遊びを通して(しりとり、なぞなぞ、言葉集め)身近な物の名前を知ったり新しい言葉を覚えたり、言葉の持つ意味を感じとったりすることができます。

いろいろな遊びを子どもと一緒に工夫して作ったり遊んだりしてみましょ。お母さんがカード1枚作っただけで子どもは大変な反響があるでしょう。

### \*園生活の総仕上げ\*

目先だけのことにとらわれて、子どもへの要求が多くなると情緒不安定となりスムーズな小学校への移行ができなくなります。字をたくさん知っているとか算数の初歩を知っているということではありません。大切なのは自分がかきだせる子どもになっているか、新しいことに興味を持って取り組める子どもになっているかです。

そのような本質を大人はしっかり見きわめておきましょ。

### \*文字環境\*

文字も数字も記号ですから覚えなくてはいけないことですが、覚えはじめる時期や覚え方には個人差があります。就学前になって1週間位でバタバタと覚える子どももいますが、一般的に、早くなっています。

50音の清音をまだ少ししか覚えていないようでしたら、文字環境を強化してあげたいものです。



## 大きなジャンプ

### \*再チェック\*

基本的な生活習慣の再チェックをしてあげましょう。衣服の着脱や 20 分以内の食事、返事や挨拶、自分の事は自分でできるなど別表を参考にして点検してあげましょう。小学校からは自分の名前がわかればよいということですが「自分の名前がわかる」ということは一字一字をばらしても読めるということなのです。

### \*通学路への慣れ\*

小学校へ行く通学路を子どもと一緒に歩き、危険な場所を確かめましょう。正しい歩き方、交通ルールも共に指導しておきましょう。

### \*健康管理\*

虫歯や鼻炎、耳の病気など治療しておかなければならないものは時間を見つけて治しておくようにしましょう。

### \*一緒に入浴\*

好きな友達同士の輪が広がり目的に応じて多数の友達と遊ぶようになっていきます。遊びのルールを自分達で作ったり確かめたり、遊びのルールを守らなかったりすると納得するまで話し合う態度が見られます。家庭でもこの態度は大切にしたいものです。万引きなどにもまきこまれやすい時期です。お母さんとはお風呂でなどで肌と肌でじっくり話すことも心を落ちつかせる良い方法です。特に男の子などは、お母さんと入浴したり抱かれるのを喜ぶのは 10 歳までです。

終わりに

親にとっても子どもにとっても大きな人生の節目の時期がやってきました。やがて子ども達は園を巣立ち一年生となりますが、幼児期を終えて学童期へと旅立つ子ども達は限りない可能性を秘めています。

これから進む学校は幼稚園と同じ学校教育制度の中でありながら、幼稚園とは異なるものがあります。それは幼稚園は主に心を育て、学校は知力を育てるという目的の違いがあるからです。しかしいずれにも社会に生きていくという大きな目標からすれば一つの線上にあるものです。

我が子がどんな生きかたをすればよいのか、よりよい社会人になるためにはどんな行動をとるべきなのか、これを教えることは親として大切な、そして一番見失ってはならない最も重要なことです。親の生きざまを見せることで子はそれを学びとります。子にとって親はなすこと全てがすばらしい見本なのです。子どもにいつも尊敬とあこがれのまなざしで見られていることを誇りにして子どものために生きたいものです。

これからの行くてには新しい問題がたちはだかっているかもしれません。しかしそのときもこれまで学んできたことを生かし表面的なことに惑わされず問題の奥底にあるものに目を向けてそれを拠点に思考深く考えるそういう賢明な親でありたいものです。

そして子どもの周りにいる大人が一生懸命幼児期に培ってきた根が芽を出いつか花開き子ども達が私達大人のもともから本当に巣立つころ人格の一部となつてにじみでてくることを信じてママのてまくらを終わります。



## 上手な叱りかたチェックポイント 8

1. その行為だけ叱りましょう。叱るのは子どもの行為であって性格や才能ではありません。性格まで一緒にして叱ると自分が人より劣った人間であると思いいじけます。
2. 悪いことをしたすぐ後に叱りましょう。  
人前であろうと、そのときすぐ叱りましょう。2年生くらいまでは大人ほど自尊心は傷つきません。そのとき叱らなかつたら、もう叱るのはやめることです。
3. どの行為をどんな理由で叱っているかはっきりしましょう。  
子どもの悪い行為を理由をあげて叱りましょう。  
とっさにはなかなかできませんが大声を出したその後でいいのです。  
理由をつけ加えてやりましょう。
4. 叱る人の責任で叱りましょう。  
母親が子どもの行為を悪いと判断して叱るのだから母親の責任で叱りましょう。他人の権威をかりて叱っても子の親に対する不信感を強めるだけです。
5. 兄弟や友達と比べて叱るのはやめましょう。  
必要以上の劣等感を持つようになり、押し付けられた劣等感はずいぶん性格をゆがめます。
6. 叱るときは短く簡潔にしましょう。  
叱られることは子どもにとって逃げだしたい程いやなことなのです。  
ピリッと短くいきましょう。
7. 他人の権威を傷つけるのはやめましょう。  
「お父さんに似て〇〇だから」なんていうのはもってのほかです。  
叱っている意味がなくなってしまいます。
8. 叱ると褒めるは車の両輪と覚えましょう。  
叱る事で悪い行為をやめさせ、褒める事で良い行為を繰り返させるのです。百回叱ったら百回褒める気持ちでいましょう。特に幼児期はスキンシップを伴った褒め方でその年齢なりに当然なことをしたときもそれを認めて褒めましょう。

別表

「就学前に身につけておきたい事」

小学校の立場から

	就学を前にこんな事が出来ていますか	できる	どうにか できる	できない
1	朝食は、必ず食べて登園している。			
2	嫌いなものでも我慢して食べる。			
3	食事は20分以内で済ませる事が出来る。			
4	食事の前や、用便の後に手を洗う事ができる。			
5	用便が一人でできる。			
6	脱いだ洋服や靴を、決められた場所にきちんと置く事ができる。			
7	自分で衣服の着脱ができ、ボタンやファスナーの処理ができる。			
8	雑巾が絞れる。			
9	紐を結ぶことができる。			
10	使った物の後片付けができる。			
11	箸が正しく使える。			
12	自分の物と人の物との区別ができる。			
13	交通信号を守って、道路を横断する事ができる。			
14	自分の名前を大きな声ではっきり言える。			
15	自分の事を（僕）（私）などの正しい呼び名で言える。			
16	名前を呼ばれたら「はい」と大きな声で返事ができる。			
17	自分の親の名前が言える。			
18	自分の家の住所や電話番号が言える。			
19	（おはようございます。さようなら。ありがとう）などの挨拶が進んでできる。			
20	困ったときや判らない事は、自分からはっきり言う事ができる。			
21	ひらがなの自分の名前がわかる。			
22	友だちと仲よく遊ぶ事ができる。			

## おわりに

このハンドブックはかたくるしくないものを目指しました。幼稚園生活に関連して、この時期には、お母さんにこのように子どもとかかわって欲しいと感じた事を一つ一つに集めたものです。

幼稚園の流れに沿ってまとめていますが、子どもの成長は時期や年齢で割り切れない部分が数多くあります。

ですから、4歳の方でも5歳のページを、春の時期でも夏のページをというようにご自由にめくっていただきたいのです。机に向かって、「さあ」といって読んでいただくものではありません。どうぞ、家事のかたてまに、鼻歌まじりにお読み下さればよいのです。

内容によっては、すべての家庭にはあわないかもしれません。せめてどれか一行でも、子どもの望ましい成長の手助けの一つになることを願いながら…。

園長 高杉美稚子

